

【報告9】日本・カナダ商工会議所協議会 第6回合同会合 概要報告

2022年10月

日本・カナダ商工会議所協議会

1. 日 時： 2022年9月19日（月）14:00～16:20
2. 場 所： アートギャラリーオンタリオ（トロント）
3. 言 語： 日英同時通訳
4. 出席者： 53名（両国協議会メンバー・カナダ政府関係者等）

【日本側】日本・カナダ商工会議所協議会

安永竜夫 日本会長（三井物産株式会社 代表取締役会長）ほか30名

【カナダ側】日本・カナダ商工会議所協議会

スティーブ・デッカ カナダ会長

カナダ商工会議所会頭

ペリン・ビーティー会頭 ほか23名

【来 賓】 山野内勘二 駐カナダ日本国大使、佐々山拓也 在トロント日本国総領事、齊藤純 在モントリオール日本国総領事

イアン・マッケイ 駐日カナダ大使

5. 総括的概要：

本会合の対面実施は、2017年の仙台開催以来5年振りとなり、両国合わせて53名が参加した。今回の全体テーマは「課題多き時代における真のパートナー（Respected Friends in a Challenging World）」であり、討議テーマとして「サプライチェーンの見直し」「エネルギー分野における二国間協力」「食料分野における二国間協力」の3つを取り上げ、議論を行った。また、政府関係者として、日本側は山野内駐カナダ日本国大使、佐々山在トロント日本国総領事、齊藤在モントリオール日本国総領事、カナダ側はマッケイ駐日カナダ大使、ベシヤン カナダ投資公社投資部門長ほかにご出席いただき、ビーティー カナダ商工会議所会頭が討議のモデレーターを務める中、スピーカー、パネリストとの活発な意見交換が行われた。



6. セッション別概要：

第6回合同会議

(1) 開会

スティーブ・デッカ 日本カナダ商工会議所協議会 カナダ会長は開会にあたり、本会議は、対面では4回目、カナダでは2回目の開催となる。今回は東日本大震災の後に仙台で開催されたが、今回もコロナ禍の中で開催されるもので、困難の後の始まりの意味合いがある。今回は3つのテーマを討論し、さらに強固な二国間関係を構築したい旨が述べられた。

次に、安永竜夫 日本・カナダ商工会議所協議会 日本会長（三井物産会長）より、ロシアのウクライナ侵攻などもあり、この10か月で世界情勢は一変した。6月のG7サミットにおいて日加両国はエネルギー、食料分野で緊密に連携していくことで一致。今回の3つのテーマは時宜を得たもので、同じ価値観を有する両国間でどのような連携・協力が図れるか有意義な討議を期待したい旨が述べられた。

イアン・マッケイ駐日カナダ大使からは、二国間は、法の支配、安全保障、グローバルヘルス、エネルギー、自由貿易、気候変動など共通の課題を共有しており、カナダは地域での存在感を増している。エネルギー（水素、アンモニア）、EV、グリーンテクノロジー等での連携など、両国の関係が強化されてきている中、これまで以上に重要な機会を迎えている旨が述べられた。

続いて、山野内駐カナダ日本国大使より、赴任して4か経過し、二国間での大きな会議は初めてとなるが、対面の会議こそが本当の会議である。二国間は新たなステージに入っており、その理由は、①AIの進展など大きな変化が起きている、②ウクライナ危機によりエネルギー、穀物産出国の重要性が高まっている、③安倍前首相の主導した「自由で開かれたインド大洋州」にカナダ政府も関与しており、両国はこの地域での新しい方向性を共有している。今回の3つのテーマは旬なテーマであり、カナダでも炭素回収・貯留（CCS）、安全良質な豚肉など同テーマに関連した新たな動きが見られる旨が述べられた。



デッカ会長



安永会長



山野内大使



マッケイ大使

(2) セッション1「サプライチェーンの見直し」

モデレーターは各セッションともピーティー カナダ商工会議所会頭が務めた。

冒頭、曾根 J E T R O 理事がスピーチを行った。物流の混乱による製造業の生産計画への影響、ロシアのウクライナ侵攻による同盟国間ビジネスの拡大、インフレに対する金融引締め策による経済の減速懸念が、サプライチェーンに大きな影響を与えている。日本からカナダへの物流に係るサプライチェーンに関しては、船便の遅れや運賃高騰が在カナダ日系企業の経営に大きな影響を与えている。

それに加え、J E T R O が在米・カナダ日系企業に行ったアンケートでは、

7割の企業が人権問題を経営課題と認識し、サプライチェーンにおいて人権尊重を重視するとしている。一方、日本企業の本社を対象として J E T R O が行ったアンケートによると、今後の事業拡大を図る国として米国が初めて首位となり、カナダも14位と順位を上げてきている。カナダは先端技術、製造業、天然資源も兼ね備え、コストも米国より低く巨大市場・米国に隣接した地理的優位性があることから、米国・カナダをひとつのエリアとして捉えたカナダでの調達・生産を検討する企業が増えてくると指摘した。

続いてカナダ側からパネリストとして、ピーター・ゾッタ バンクーバー港湾管理委員会 運行サプライチェーン担当副会長、ロン・ディ・カールアントニオ INAGO CEO が登壇した。

ゾッタ副会長からは、港湾のオペレーション状況に関して、2020-21年はコロナ禍の影響もありコンテナの荷卸しが過去最高と急増したことで混乱が生じた。改善に向けて取り組んでいるが物量も日々変化・コンテナ不足もあり厳しい稼働状況。港湾の脆弱性は十分理解しており、設備への投資、デジタル技術を活用し、透明性・能力を向上すること等で改善していきたい。また、鉄道、道路も含めたインフラ全体への投資が必要で、運輸大臣の下にタスクフォースが設置され改善に取り組んでいる旨が説明された。



モデレーター:ピーティー会頭



セッション1登壇者 (左から、曾根氏、ゾッタ氏、カールアントニオ氏、ピーティー会頭)

続いてカールアントニオCEOから、同社はデジタルアシスタンス事業をトロントと日本を拠点に行っており、主な顧客は日本の自動車関連企業である。自動車分野では、今後「コネクティド」「電気」が鍵となり、より一層イノベーションに取り組む必要がある。自身が日本でソニーに勤務した経験も踏まえ、日本はハードウェアには強いがソフトウェアは弱く、カナダはその逆であることから、両者が連

携することでシナジーが期待できる旨が指摘された。また、曾根理事からは、日系企業と取り組みたいカナダ企業は多いが、日系企業のカナダ投資は1千社にとどまり投資余地はある（外国直接投資はカナダの第6位。米国は9千社に上り同第1位）。投資分野としては、日本企業はエネルギー（水素、アンモニア）に注目しており、カナダのスタートアップとの連携の可能性もあるとの見方を示した。

（3）セッション2「エネルギー分野における二国間協力」

パネリストとして、シャヒーン・アミラリ アルタガス副社長、イアン・バーニー パラダイム キャピタル上級顧問、並木 カナダ三菱商事社長&CEOが登壇した。

最初にアミラリ アルタガス上級副社長が、同社は1994年に設立され、LPGガスのアジア向け輸出などを行っており、取り組みにあたっては調達先の分散、多様性（種類）、信頼性を重視している。日本とは信頼関係（人間関係を重視）があり日本の需要に応えていく旨が紹介された。

続いて並木社長&CEOより、同社は2050年迄のカーボンニュートラル、ネットゼロを目標にエネルギートランスフォーメーション等を推進しており、LNGのみならず、水素やニッケルなどのクリティカルミネラルなどにも投資していく。ロシアのウクライナ侵攻を背景に、LNGのグローバルサプライチェーンの変革が必要であり、カナダは日本にとってLNGの重要な供給国になることは間違いない。また、カナダは水素、アンモニアなどの開発ポテンシャルも大きく、日本への輸出を検討しているが、輸送や港湾設備等のインフラ整備が課題であり、連邦及び州政府のサポートを期待している。カナダでの事業推進上の課題としては、連邦政府と各州政府でポリシー、システムが異なることから、連邦政府のイニシアティブの下、米国のようにシームレスでスムーズなプロセスが実現することを期待する旨が指摘された。



セッション2登壇者（左から、並木氏、アミラリ氏、バーニー氏、ピーティー会頭）

続いてバーニー上級顧問からは、連邦政府に34年間務めた経験を踏まえ、カナダはインフラ整備が遅れていたが変わろうとしてきている。豊富な天然資源、安定した政治、強い製造プロセス等があり、対日貿易では太平洋のみを航海すればよいという地理的優位性もある。アルタガスは3年前に初めてLPGを日本に輸出したが、この3年間で10億ドルに達している（日本のシェアの3%）。開発中のLNGカナダ、ブルーアンモニアに加え、太陽光、原子力等のポテンシャルなど、カナダの持つ優位性が紹介された。

(4) セッション3「食料分野における二国間協力」

冒頭、日高 三井物産カナダ社長から、カロリーベースでの食料自給率は、カナダの233%に対して日本は38%にとどまり、日本にとってカナダはこのギャップを埋める重要なパートナーになり得る。特にカナダは小麦、菜種油の産地であり、ウクライナ、ロシアからの輸出代替先として重要度が高まってきている（小麦は日本の輸入シェア40%、菜種は同90%）。食料生産に必要なカリ肥料についても、カナダは世界の1/3以上（世界肥料の13%）を生産しており重要性が増している（日本使用シェア 約6割）。食品に関してもカナダはドライエンドウ、レンズ豆の世界最大の生産国で、植物性タンパク質の原料として世界的に需要が高まっている。一方、日本からの農産物の輸出も今後期待される。しかし、カナダは輸出港までの物流に課題があり貨車やコンテナの輸送がボトルネックとなっており、日本への航海は通常30日以内（冬場は45日）であるが、2016年以降日数が増えている状況。輸出入規制や物流問題など民間が政府と一体となって解決策を見出すことを期待する旨が紹介された。



セッション3登壇者（左から、日高氏、オニール氏、エヴァーソン氏、フレイザー氏）

続いて、カナダ側からパネリストとして、エヴァン・フレイザー ゲルフ大学アレル食品研究所主任、キム・オニール カナダ食肉協会 牛肉担当 副会長、ジム・エヴァーソン カナダ菜種協会会長が登壇した。フレイザー会長からは、カナダは食品の安定的な供給国になるべきで、デジタル技術（ブロックチェーン）を使うことで、より多くの食品が生産、供給ができる。優れた日本の技術を導入しカナダの農家を強化していくべきである旨が述べられた。また、オニール副会長からは、日本の食肉市場は伸びており、優先的な重要市場である。中国は豚肉では重要市場だが、日本はWTO基準に基づく安全・安定的な信頼できる米国に次ぐ第二の市場である旨が紹介された。続いて、エヴァーソン会長から、カリ肥料ではニュートリエン社を紹介したい。世界で2.4万人の従業員を抱え小売ネットワークを構築している。日本は現在2,400万トンを入力している重要市場であるが、今後 同社が生産量を5から8千万トンまで拡大することで価格を下げると共に不足分を補完していきたい旨が紹介された。

(5) 共同声明署名式

デッカ会長ならびに安永会長が、マッケイ大使、山野内大使立ち会いの下、共同声明に署名した。その後、両大使も witness として署名された。共同声明の内容は添付参照。



(6) カナダ投資公社主催レセプション

会議後には、同会場にて合同会合の開催協力を行ったカナダ投資公社主催のレセプションが開催された。冒頭、ナタリー・ベシアン投資部門長が挨拶を行い、投資面におけるカナダの優位性（特に人材面、投資インセンティブ、環境技術）ならびに、政治経済文化面における両国の緊密な関係性を強調するとともに、同公社の投資支援活動が紹介された。最後にビーティー会頭の閉会挨拶に続き、安永会長が挨拶し、来年の日本で合同会合開催を検討する旨が表明された。本レセプションでは、合同会合参加者同士のネットワーキングが活発に行われた。



佐々山 拓也 在トロント日本国総領事主催による夕食懇談会

1. 日時： 2022年9月18日（日）19:30～
2. 場所： 総領事公邸
3. 出席者：18名（日本側のみ）
4. 概要：



佐々山総領事主催で、協議会関係者との夕食懇談会を総領事公邸で開催いただいた。夕食会には山野内大使、齊藤在モンリオール総領事も出席された。

本夕食会では、佐々山総領事が挨拶を述べられた後、安永会長、山野内大使が挨拶を行い、西谷日本商工会議所理事・国際部長が乾杯の音頭を取った。挨拶では協議会ミッションの来訪を歓迎するとともに、二国間のビジネス交流が活発化することを期待する旨の言及がなされた。大使、両総領事ほかからカナダの最新情勢をお伺いする貴重な機会となった。

フランソワフィリップ・シャンパーニュ カナダ革新・科学・産業大臣主催による昼食懇談会

1. 日時： 2022年9月20日（火）11:45～13:15
2. 場所： 同省 Executive Boardroom
3. 出席者：25名（日本側16名、カナダ側9名）
4. 概要：

本会は、フランソワフィリップ・シャンパーニュ大臣の主催にて開催され、同大臣のほか、サイモン・ケネディー副大臣、イアン・マッケイ駐日カナダ大使、エリック・コステン革新・科学・産業副大臣上級補佐、コレット・カミンスキー副大臣補佐、ジェフ・ラボンテ天然資源省副大臣補佐などに加え、山野内駐カナダ日本国大使が参加された。

大臣挨拶、安永会長挨拶に続き、大臣の司会で昼食をとりながら、活発な意見交換・対話が行われた。安永会長からは、7月の大臣の来日時以来の再会を果たしたこと、前日に開催された合同会合において実りある討議が出来たこと、及び、共同声明を大臣に提出し、協議会としてもカナダでのビジネス・投資に向け取り組んでいく旨が表明された。



シャンパーニュ大臣(右)に共同声明を手交



シャンパーニュ大臣による歓迎挨拶

カナダ政府関係者による説明会

1. 日 時： 2022年9月20日（火）13:15～14:20
2. 場 所： 同省 Executive Boardroom
3. 出席者：15名（日本側のみ）
4. 概 要：

エリック・コステン革新・科学・産業副大臣上級補佐、コレット・カミスキー同副大臣補佐、及び、ジェフ・ラボンテ天然資源副大臣補佐から、夫々の省が行っている投資支援制度を説明いただいた。

カミンスキー副大臣補佐からは、イノベーションの推進を支援する Strategic Innovation Fund (SIF) の説明があり、ほぼ全分野が対象となるが、雇用促進、研究開発に対するコミットメント、現地調達等が求められるなどの説明があった。また、ラボンテ副大臣補佐からは、同省はグリーンテクノロジーを中心に支援している一方、現在 カナダには 60 種類の鉱物資源があり世界各地でパートナーシップを締結しているが、カナダは開発においては厳格な環境規準を順守しており、それが世界各地の鉱山操業のスタンダードになっている旨の説明があった。時間も限られる中、更なる質問は各省に直接問い合わせたい旨のコメントがあった。

山野内 勲二 駐カナダ日本国大使主催による夕食会

1. 日 時： 2022年9月20日（日）18:00～
2. 場 所： 大使公邸
3. 出席者：15名（日本側のみ）
4. 概 要：31名（日本側15名、カナダ側16名）

山野内大使主催で、協議会関係者とカナダ政府関係者、加日共同議員連盟関係者との友好と日加経済関係強化を目的に大使公邸でレセプションを開催いただいた。

本レセプションでは、山野内大使が挨拶された後、ジョイス・マレー漁業・海洋・沿岸警備大臣、安永会長、ビーティー会頭、ゴード・ジョーンズ加日議員連盟執行役員が挨拶を行い、マッケイ大使が乾杯の音頭を取った。挨拶では二国間の緊密な連携・関係強化の必要性が確認された。ミッションの最後の行事として、和やかな雰囲気の中で参加者が親交を深める良い機会となった。



山野内大使によるご挨拶